

魔法のプロジェクト FY23 活動報告書

報告者氏名: 佐藤 知代子

所属: 南あわじ市立市小学校

記録日: 2024年 2月 26日

キーワード:

【対象児の情報】

- ・学年 小学5年生
- ・障害と困難の内容

■その他 (診断を受けている児童はいない)

【活動目的】

- ・当初のねらい 「誰もが輝けるクラスをめざして」
- ・実施期間 令和5年4月から令和6年3月
- ・実施者 佐藤 知代子
- ・実施者と対象児の関係 5年1組児童と学級担任

【活動内容と対象児の変化】

- ・対象児の事前の状況

① Aさん

【学習面】

- ・学力に遅れは見られない。コツコツと努力することを嫌がる。
- ・集中力はあるが、なかなか意欲につながらない。
- ・授業中大きな声を出したり、離席したりすることもある。
- ・何年も前に聞いたことを覚えていて、その時の情報を活用することができる。
- ・感覚過敏のため、いろいろな刺激に反応する。(音・匂い・触感)
- ・指示が明確でなくわかりにくいといらいらする。

【生活面】

- ・クラスのリーダー的存在。A君が盛り上げるとクラス全体が盛り上がる。
- ・仲間意識が強く、いつもそばに数人を従えていないと不安になる。
- ・こだわりが強く、ちょっとしたことでキレる。ひどい時には教室の机やイスをひっくり返すほど派手に暴れる。学年が上がるにつれ、我慢ができる時間が長くなったり自分で自分を振り返ったりできるようになってきている。

② Bさん

【学習面】

- ・すべての学習において少しずつしんどさがある。
- ・語彙力も低く、口頭での指示の多くは理解できていないことが多い。
- ・時に無気力になってしまうことがある。
- ・字形が整わず、ノートがうまく取れない。
- ・思考を伴う学習では、参加せずぼーっとしてしまう。

【生活面】

- ・優しく温厚な性格。
- ・自分の気持ちが乗らなくなると体調不良を訴える。ひどい場合には、登校しぶりを起こすこともある。

③ Cさん

【学習面】

- ・字形が整わず、まっすぐ文字を書くことができない。
- ・学習にはまじめに取り組んでいるが、なかなかその成果が表れない。

【生活面】

- ・温厚な性格で大変優しい。
- ・自分に自信がなく、よく挙動不審な動きをする。

④ Dさん

【学習面】

- ・思考を伴う学習活動では自力解決が難しいことが多い。
- ・教師の質問に対して返答をすることが少ない。
- ・特に算数ではかなりのしんどさがみられる。数の概念がほとんどない。

【生活面】

- ・教室ではほとんどしゃべることがないが、休み時間に気を許した児童2人とは会話ができる。(年々喋れる子が少なくなっている)
- ・真面目で頑張る性格であるが、わからないことをわからないということができない。
- ・イエス・ノーは首を振り答えることができる。

・活動の具体的内容

○授業だけでなく連絡や長期休暇等にもタブレットを活用できるようにする。

○教室内のUD化を図る(教室環境・人的環境・授業)

①教室環境

しっかりとルールを決め、安心できるクラス

②人的環境

一人ひとりが大切にされる学級経営を行い、認められる声掛けを意識することで自尊感情を高める。

③授業づくり

クラスのどの子も楽しく学び合い、「わかった・できた」と思える授業づくり【ICTの活用】

タブレットは、許可をとらずに自分の必要に応じて活用可能。使いたいときに出す。【ルールは必ず守る】

- ・ノートテイクが難しい子へ写真の活用
- ・新しいことへは写真を見せて説明
- ・漢字はタブレットで調べて書く
- ・連絡もタブレット(Metamoji classroom 以後「メタモジ」)で送る
- ・長期休暇につながる(Teamsの活用)
- ・計算ができなく、算数への取り掛かりが難しい時には、電卓の活用

・対象児の事後の変化

① Aさん

穏やかに過ごせる日が増え、キレることが少なくなった。
 学習に対して、少し前向きになった。
 失敗が認められるようになった。
 素直に「わからない」「嬉しい」などの感情を言葉にできるようになった。

② Bさん

不安なことは事前に尋ねられるようになった。
 いろいろなことに前向きに取り組めるようになった。
 体調不良を訴えることがほぼなくなった。

③ Cさん

丁寧な字をかける日が増えた。
 学習に前向きに取り組むことが増えた。

④ Dさん

わからないことを質問できるようになった。
 苦手な算数に前向きに取り組めるようになった。
 クラスの子との関わりが増えた。

今回の取組を通して、Aさん・Dさんに大きな変化が見られた。

【報告者の気づきとエビデンス】

・主観的気づき

苦手なことから逃げてしまうことの多かった対象児たちであったが、それぞれ苦手に向かっていくことができ、いろいろなことに前向きに取り組むことができるようになった。

・エビデンス(具体的数値など)

Aさんの小テスト結果

以下のエピソードにあるように、漢字テストに意欲的に取り組むことができることで、漢字が定着している。

	1回	2回	3回	4回	5回	6回	7回	8回	9回	10回	11回	12回	平均
1学期	90	90	80	60	50	90	90	100	70				80
2学期	80	90	90	90	100	100	90	100	90	100	80	100	92.5
3学期	100	100	100	90	100								98

7月・2月に行った自尊感情尺度の結果より Bさん(一部抜粋) 4あてはまる 3ややあてはまる 2ややあてはまらない 1あてはまらない

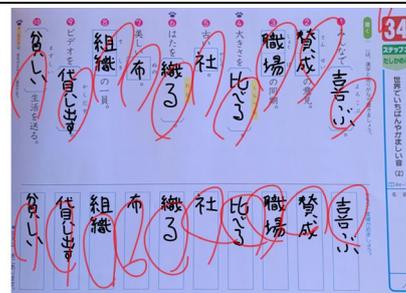
	自分が嫌い	誰の役にもたつていない	人と同じくらい価値がある	人のために尽くしたい	理解してくれる人がいる	周りの人に感謝
Bくん	3⇒1	4⇒2	2⇒4	1⇒4	1⇒4	1⇒4

対象児童に限らず、他の児童においても少しずつ良くなっている。

・その他エピソード(画像などを含めて)

Aさん

- ・女子とのつながりができ、素直に「わからない」が言えるようになった。
- 学習に対しても前向きになった。



・漢字の宿題をしてこないことが多く、タブレットでスキルの練習ページを送信したところ、「これならできる。」と、してくることが増えた。漢字ノートページは負担になるが、量も少なく、やる気も起こったようであった。その後、3学期には、自分から「3学期はノートですから、送らなくてもいい」と宣言し、毎日宿題の漢字ノートが提出できるようになった。宿題が出せるようになったことで自信からか、学習に対しても前向きになり、ノートがとれる日も増えた。漢字テストで100点が取れることも増え、さらに頑張ることができた。

・授業中わからないことはすぐにタブレットで調べて OK というルールを作ったことで、不安の強い A さんだったが、言葉の意味が分からなかったり、気になることが何かあったりするとすぐに調べ、落ち着いて学習に戻ることもでき、また、みんなに調べたことを伝えることもできた。

(例)社会の時間に、「世界自然遺産」という言葉が出た時に、じゃあ日本ではどこが認定されているのかを調べ、みんなに報告した。さらにその場所がどこかということも併せて調べ伝えることができた。

・帰りの会で行う「今日のMVP」のコーナーでほめられたときに「この時間になると、勝手にほっぺたが緩んでくるんよな。なんか、変なこと言うたろうと思うけどつつい嬉しくなってしまうんよな」という発言が見られた。素直に喜びを表現できるようになった。

Dさん

・年々言葉数が少なくなり、発表や日直等絶対に言葉を発さないといけない場合にしか声を出すことのなかった D さん。その声も隣の席の子に聞こえるかどうかくらいの声量であったが、2学期頃より少しずつ声が聞こえるようになってきた。

・12月より Teams で個別ページを作り、学校で聞けないことや聞き逃したことを気軽に相談できるようにしたことで、算数がわからないこともきちんと伝えることができた。少しずつ声が出せるようになり、3学期の目標は「たくさんの人と喋れるようになりたい」と書くことができた。当番等の声も大きく後ろの席の子まで聞こえるようになった。

